

報告

教員・保育者養成課程における職業意識定着と
動機づけのための教育方法の開発Ⅱ
— 早期体験実習を経験した学生に対する意識調査を中心に —

大城 亜水¹⁾ 山下 敦子¹⁾ 中田 康夫²⁾
高松 邦彦³⁾ 中西 利恵¹⁾

Development of the educational method for motivation with
establishing professionalism in Students Majoring in Primary
Education and Child Care II : Focusing on a survey of attitudes
toward students who have experienced early exposure

Tsugumi OSHIRO¹⁾, Atsuko YAMASHITA¹⁾, Yasuo NAKATA²⁾,
Kunihiko TAKAMATSU³⁾, and Rie NAKANISHI¹⁾

要旨

本稿は、教員・保育者養成課程における職業意識定着と動機づけに結びつける教育方法の開発として「早期体験実習プログラム」の構築を検討し、その教育的効果を検証することを目的とする。教育学部こども教育学科1年生に実施する小学校、保育所、幼稚園、社会福祉施設の観察実習に加え、本学科独自のKITプログラムを合わせた早期体験実習の実施前後で行う意識調査の分析結果から、その教育的効果を論ずる。なお、同調査は本学が利用する株式会社朝日ネット「manaba[®]」のアンケート機能を用いて実施した。その結果、実習前は子どもや保護者との関わりに不安を抱く学生が大半であったが、実習後の意識調査からは、その不安はかなり改善された結果となった。さらに、実習後のふりかえりレポートからも、将来の教育者・保育者像や職業意識を具体的にイメージした感想が多かった。

キーワード：教育・保育者養成課程、早期体験実習、職業意識定着、意識調査、教育的効果

1) 教育学部こども教育学科 2) 保健科学部看護学科 3) 前保健科学部診療放射線学科／現東京工業大学

Abstract

This study examined the construction of a program to develop educational methods that will lead to the establishment of professional awareness and motivation in students majoring in primary education and child care, and thereafter examining its educational efficacy and effectiveness. Specifically, the program covered observation training at elementary schools, nursery schools, kindergartens, and social welfare facilities conducted for first-year students of the Department of Childhood Education, Faculty of Education, as well as early experience training combined with the department's own KIT (Kids Inspire Tokiwa) program. The survey was conducted using the survey function Asahinet "manaba," which is used by the University. Most of the students were anxious about interacting with children and their guardians before the training, but a post-training awareness survey showed that their anxiety had improved considerably. In addition, many post-practicum reflection reports showed that the students had a concrete image of their future as educators and childcare providers, as well as of their professional awareness.

Key words: Students Majoring in Primary Education and Child Care, Early exposure, Establishing professionalism, Awareness survey, Educational effect

はじめに

本研究は、4年制大学において教員や保育者を目指す学生に、養成段階の早期から職業意識の定着と動機づけに結びつく教育方法の開発として「早期体験実習プログラム」(以下、プログラムと称する)の構築に取り組んでいる。プログラムの検討にあたっては、医療・看護・保健分野ですでに取り組まれている「早期体験実習(アーリーエクスポージャー)」を参考に、教育・保育分野における早期体験実習を導入したプログラムを開発し、実践を試みた¹⁾。本研究では、プログラムの教育的効果について明らかにしていきたい。

開発したプログラムの特徴は、早期体験実習の実施先として、小学校、幼稚園、保育所、社会福祉施設の関連施設に加え、本学独自の施設である「子育て総合支援施設(以下、KITと称する)」^{注1)}での実践を組み込んだ点である。KITは、乳幼児とその保護者、学童(小学1年生から6年生)、そして地域の人々という幅広い年齢層との関わりが

体験できる場である。教育実習や保育実習では得られにくい体験が可能である。本学科は小学校教員を目指す教員養成コースと、保育士、幼稚園教諭、施設職員を目指す保育者養成コースに分かれているため、プログラムはコース別に編成している^{注2)}。

両コースのプログラムについて教育的効果を検証するため、教育学部こども教育学科1年生を対象に、2020年度と2021年度の2年間にわたり、プログラム実施前と終了後に意識調査を行った。本稿では、意識調査の分析結果から教育的効果について論じる。なお、本研究は神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部研究倫理委員会の承認のもとに行われた研究である。

早期体験実習プログラム

1. 教員養成コースにおける早期体験実習プログラム

教員養成コースの早期体験実習は、表1の通り

表1 教員養成コースにおける早期体験実習プログラム

実習先	実習内容	実習目的
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年～第6学年、および特別支援学級の授業を参観 ・見学時間：9：00～12：00 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教諭をめざすために、「教わる立場」から「指導する立場」の目線で教育現場を体験すること。 ・小学校の授業を参観することで、教師の指導力や資質について考え、自分の適性と比べて将来の進路を考える材料とすること。
幼稚園(希望者のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・園の様子を見学 ・見学時間：9：00～12：00 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの傍らに居る意味と楽しさを体感する。 ・小学校入学前の子どもの実情を体感する。 ・教育の基礎となる対象理解のための記録の視点を学ぶ。
社会福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設の見学 ・見学時間：9：30～16：00 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童養護施設、児童心理治療施設、児童発達支援センター、放課後等デイサービス(児童福祉施設)における見学体験を通して、当該児童のありのままの姿をとらえ、各施設の社会的意義・役割と存在価値を理解する。 ・また、保育士資格・社会福祉主事資格の汎用性と専門性、役割について、見学体験を通してその職域や職務内容(保育士・児童指導員等)を理解し、将来の進路を考える参考とする。
KIT(てらこや)	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題や学習の支援 ・学習規律の指導 ・児童との触れ合い ・保護者とのコミュニケーション ・実習時間：15:30～18:15 	<ul style="list-style-type: none"> ・KITを利用する児童への宿題等の学習支援を行い、指導力の基礎・基本を身につける。 ・児童と遊びや会話を通して触れ合うことで、児童理解力の基礎・基本を身につける。 ・KITを利用する児童の保護者と会話をし、保護者とコミュニケーションを図る力の基礎・基本を身につける。 ・児童と実際に関わることで、自己の適性について把握する。 ・実習を振り返り、今後の自己の目標をもつ。

出所：筆者作成。

である。1年次の夏季休暇期間に小学校、社会福祉施設、幼稚園（希望者のみ）の各施設に半日～1日の観察実習を行う。さらに、KIT（てらこや）実習を4回行うことで、教師に必要な指導力の基礎・基本を培うことを目的としている。

2. 保育者養成コースにおける早期体験実習プログラム

保育者養成コースの早期体験実習は、表2の通りである。教員養成コース同様、1年次の夏季休暇期間に保育所、社会福祉施設、幼稚園の各施設に半日～1日の観察実習を行う。さらに、同コー

スのKIT（ときわんクニヅカ、ときわんモトロク）実習を半日実施し、将来目指す保育者像を具体的にイメージすることを目的としている。

研究方法

1. 調査対象

教育学部こども教育学科1年生を対象2020年度および2021年度の早期体験実習プログラムに参加した教員養成コース56名、保育者養成コース115名の学生計171名に実施した。

表2 保育者養成コースにおける早期体験実習プログラム

実習先	実習内容	実習目的
保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・園の様子を見学 ・見学時間：9：00～12：00 	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園に通う乳幼児と保育所機能についての基本的理解を深める
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・園の様子を見学 ・見学時間：9：00～12：00 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの傍らに居る意味と楽しさを体感する。 ・小学校入学前の子どもの実情を体感する。 ・教育の基礎となる対象理解のための記録の視点を学ぶ。
社会福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設の見学 ・見学時間：9：30～16：00 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童養護施設、児童心理治療施設、児童発達支援センター、放課後等デイサービス(児童福祉施設)における見学体験を通して、当該児童のありのままの姿をとらえ、各施設の社会的意義・役割と存在価値を理解する。 ・また、保育士資格・社会福祉主事資格の汎用性と専門性、役割について、見学体験を通してその職域や職務内容(保育士・児童指導員等)を理解し、将来の進路を考える参考とする。
KIT(ときわんクニツカ・ときわんモトロク)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内でペープサートやエプロンシアターなど出し物を企画・制作し、実習日に実践する。さらに、子どもだけでなく保護者を含めた親子交流を意識して実習に臨む。 ・実習時間：(実習期間中に1日、午前の部(10：00～12：00)、午後の部(14：00～16：00)のどちらかを担当する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・KIT を利用する親子と交流することで、子どもとの関わり方や保護者との会話方法など、基本的なコミュニケーションの関り方を学ぶ。 ・KIT の施設職員との関わりを通して、保育実践力の基本・基礎を身につける。

出所：筆者作成。

2. 調査時期

実習前 2020年9月28日－10月5日、2021年5月31日－6月18日

実習後 2021年1月18日－3月9日、2022年1月17日－2月21日

3. 調査方法

本学が利用する株式会社朝日ネット「manaba[®]」のアンケート機能を用いて実施した。

4. 調査内容

実習に対する期待や不安、子どもやその保護者あるいは施設職員との関わり、さらに将来の職業意識について調査した。具体的な調査項目を表3

に示す。

「ありのままの気持ち」として回答のしやすさを考慮し、アンケートの質問形式として五肢択一式を採用した。

5. 分析方法

集計は教員養成コースと保育者養成コースのコース別に行った。2020年度・2021年度の年度ごとに実習前と実習後で選択肢別の割合を抽出し、比較した。

6. 倫理的配慮

本研究は、神戸常盤大学研究倫理委員会の承認(神常大研倫第20-5号)を得て実施した。

表 3 実習前および実習後に関する意識調査

<実習前>

1年生のみなさんは、今後保育園、幼稚園、施設、小学校等の実習が行われます。子育て総合支援施設 KIT では、実際に子どもたちと関わる実習が始まります。その前に、みなさんの心理的な状態をお聞きます。回答の結果は研究以外に使用しません。本調査は、身体への影響を伴うものではありません。また、本調査に協力しなくても、成績など不利益を被ることは一切ありません。ありのままの気持ちをお答えください。

5 強く感じる 4 少し感じる 3 どちらとも言えない 2 あまり感じない 1 全く感じない

1 実習に対して不安を感じる

2 実習に対して期待をしている

3 子どもとの関わりに自信がある

4 子どもの保護者(親)との関わりに自信がある

5 施設の職員との関わりに自信がある

6 保育職、教育職に就きたいと感じる

自由記述

7 今の実習に対する思いをありのまま記述してください

8 実習でどのようなことを学びたいですか

出所：筆者作成。

<実習後>

子育て総合支援施設 KIT では、実際に子どもたちや保護者と関わる実習を行いました。そこで、実習を終えたみなさんの心理的な状態をお聞きます。回答の結果は研究以外に使用しません。本調査は、身体への影響を伴うものではありません。また、本調査に協力しなくても、成績など不利益を被ることは一切ありません。ありのままの気持ちをお答えください。

5 強く感じる 4 少し感じる 3 どちらとも言えない 2 あまり感じない 1 全く感じない

1 実習に対して不安は解消された

2 1で、なぜそのように感じたのか具体的に教えてください(自由記述)

3 実習に対して期待通りだった

4 3で、なぜそのように感じたのか具体的に教えてください(自由記述)

5 子どもとの関わりに自信がついた

6 5で、なぜそのように感じたのか具体的に教えてください(自由記述)

7 子どもの保護者(親)との関わりに自信がついた

8 7で、なぜそのように感じたのか具体的に教えてください(自由記述)

9 施設の職員との関わりに自信がついた

10 9で、なぜそのように感じたのか具体的に教えてください(自由記述)

11 保育職、教育職に就きたいと感じた

12 11で、なぜそのように感じたのか具体的に教えてください(自由記述)

13 実習を終えた思いをありのまま記述してください(自由記述)

14 実習で学んだことはどのようなことですか(自由記述)

出所：筆者作成。

結果および考察

1. 教員養成コースの結果と考察

1-1. 結果

2020年度および2021年度に実施した意識調査の結果は図1から図6の通りである。

2020、2021の両年度とも、実習後に子どもや保護者、施設職員との関わりに対する自信がついたと回答する割合が高かった。具体的には、子どもとの関わりに対する自信は、2020年度は実習前「60.0 (%)」、実習後「80.0 (%)」と20ポイント向上し、2021年度は実習前「9.5 (%)」、実習後「23.8 (%)」と14.3ポイント高かった^{注3)}。また、子どもの保護者との関わりに対する自信は、2020年度は実習前「37.1 (%)」、実習後「62.8 (%)」と25.7ポイント向上し、2021年度は実習前「23.8 (%)」、実習後「47.6 (%)」と23.8ポイント高かった。加えて、施設職員との関わりに対する自信は、2020年度は実習前「42.8 (%)」、実習後「71.4 (%)」、2021年度は実習前「28.5 (%)」、実習後「57.1 (%)」であり、実習前と比べて両年度とも28.6ポイント高かった。

一方、実習に対する期待や不安と将来の職業意識に関する事項では、ネガティブな回答の傾向がみられた。具体的には、実習に対する期待は、2020年度は実習前「94.3 (%)」、実習後「85.8 (%)」と8.5ポイント低下し、2021年度は実習前「90.5 (%)」、実習後「52.4 (%)」と38.1ポイント低かった。

た。また、実習に対する不安は、2020年度は実習前「31.4 (%)」、実習後「71.4 (%)」と40ポイント高かった^{注4)}。さらに、将来の職業意識に関する事項（保育職、教育職を希望する）は、2020年度は実習前「94.3 (%)」、実習後「91.4 (%)」と3ポイント低下し、2021年度は実習前「90.5 (%)」、実習後「80.9 (%)」と9.6ポイント低い結果となった。

項目別にまとめると以下の通りである。

1) 実習に対する不安

2020年度は実習前「31.4 (%)」、実習後「71.4 (%)」と40ポイント高かったが、2021年度は実習前後でほぼ変わらなかった。(図1)

2) 実習に対する期待

2020年度は実習前「94.3 (%)」、実習後「85.8 (%)」と8.5ポイント低下し、2021年度は実習前「90.5 (%)」、実習後「52.4 (%)」と38.1ポイント低かった。(図2)

3) 子どもとの関わりに対する自信

2020年度は実習前「60.0 (%)」、実習後「80.0 (%)」と20ポイント向上し、2021年度は「強く感じる」の項目のみで比較したところ、実習前「9.5 (%)」、実習後「23.8 (%)」と14.3ポイント高かった。(図3)

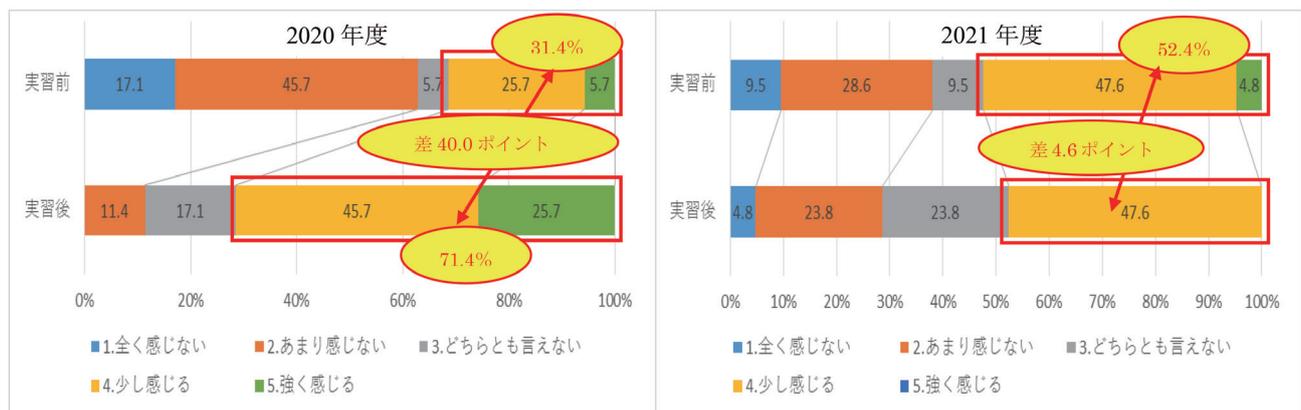


図1 「実習に対する不安」の年度比較

4) 子どもの保護者（親）との関わりに対する自信

2020年度は実習前「37.1（％）」、実習後「62.8（％）」と25.7ポイント向上し、2021年度は実習前「23.8（％）」、実習後「47.6（％）」と23.8ポイント高かった。（図4）

5) 施設の職員との関わりに対する自信

2020年度は実習前「42.8（％）」、実習後「71.4（％）」と28.6ポイント高かった。（図5）

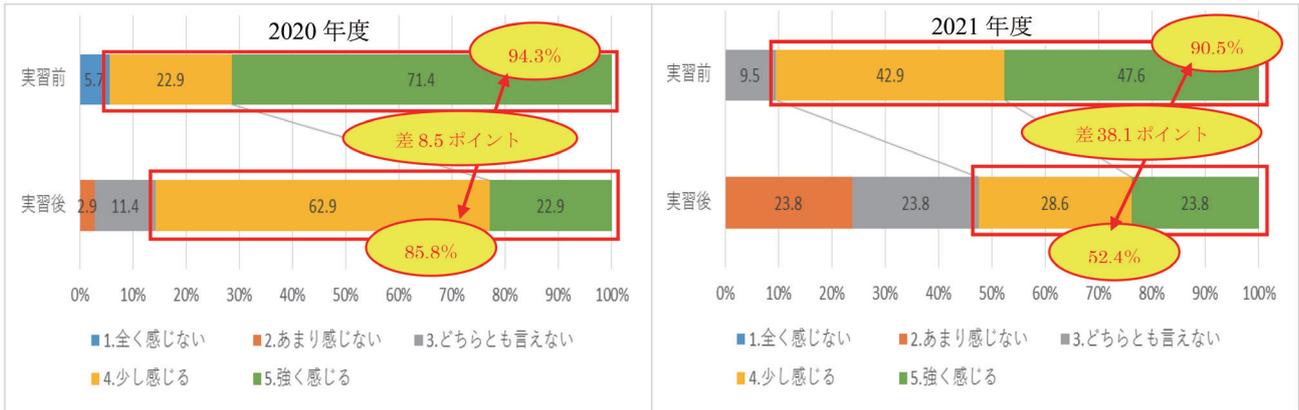


図2 「実習に対する期待」の年度比較

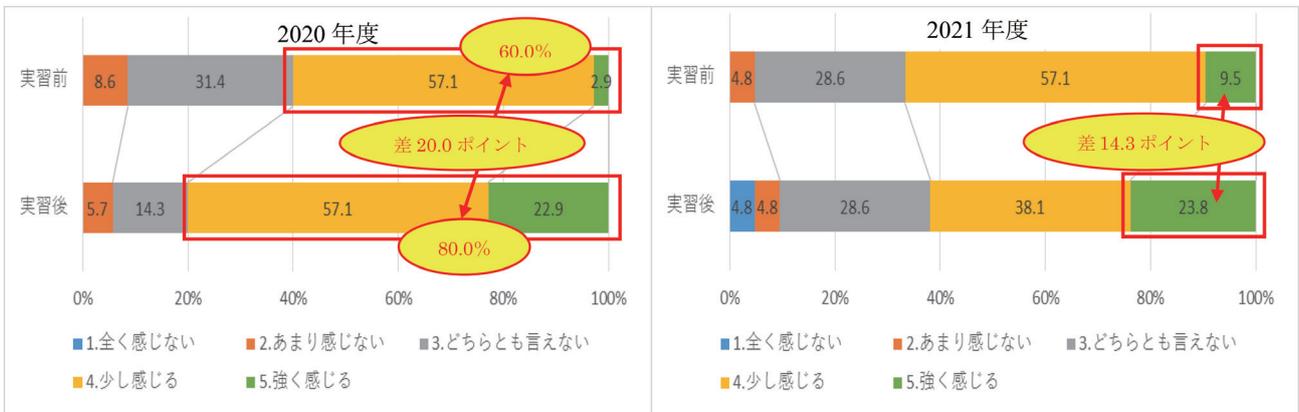


図3 「子どもとの関わりに対する自信」の年度比較

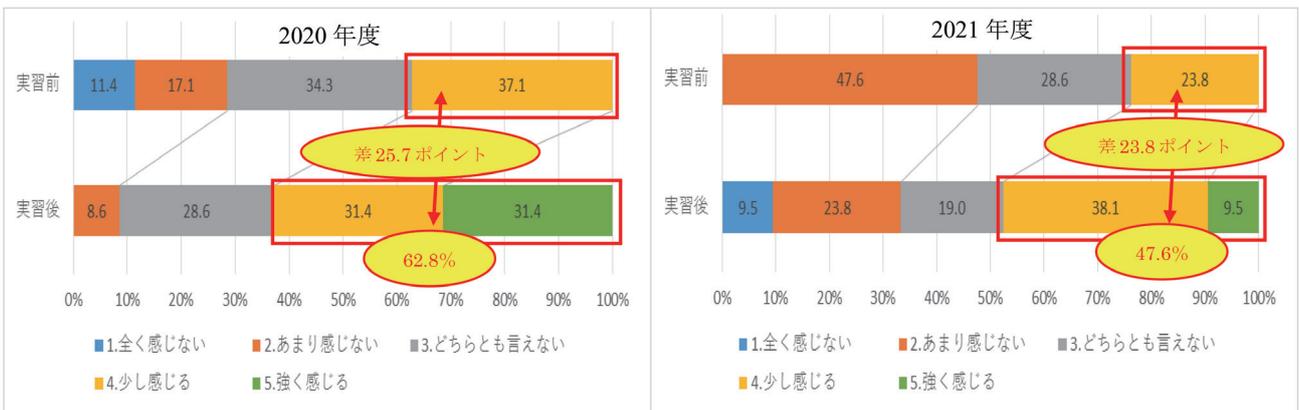


図4 「子どもの保護者（親）との関わりに対する自信」の年度比較

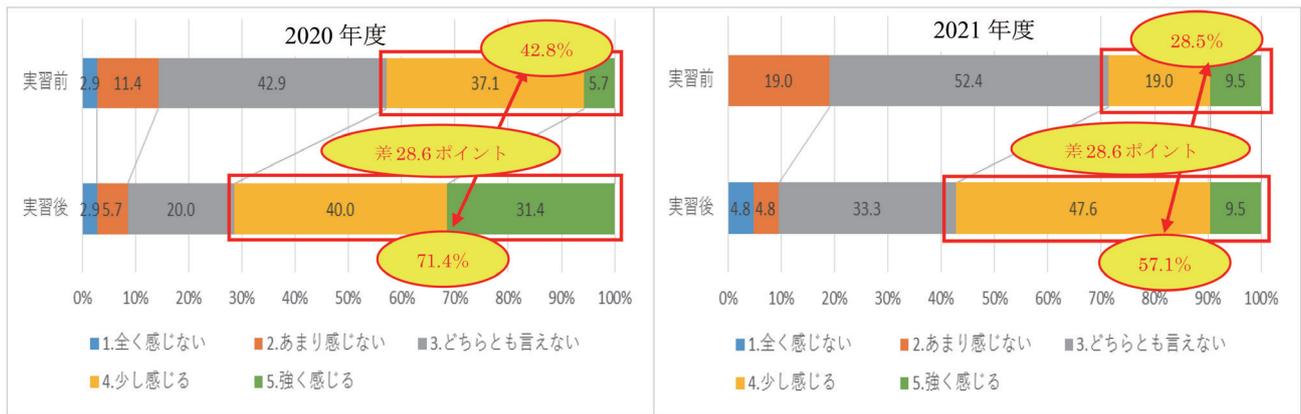


図5 「施設の職員との関わりに対する自信」の年度比較

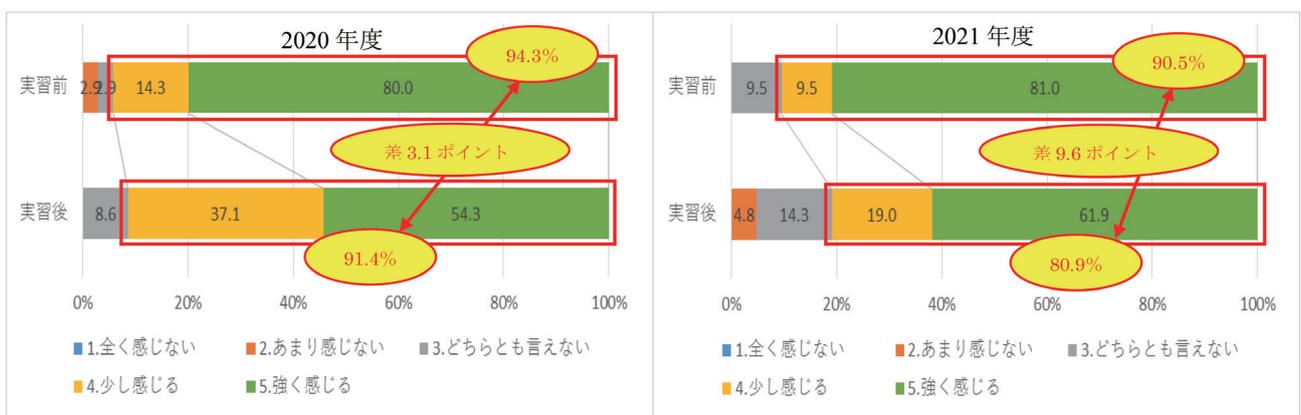


図6 「保育者、教育者を希望職とする」の年度比較

6) 保育者、教育者を希望職とする

2020年度は実習前「94.3 (%)」、実習後「91.4 (%)」と3ポイント低下し、2021年度は実習前「90.5 (%)」、実習後「80.9 (%)」と9.6ポイント低かった。(図6)

1-2. 実習の成果と課題

実習の成果として、最も肯定的な意識への変化がみとめられたのは、子ども、保護者、施設職員との関わりに対する自信である。子どもとの関わりに対する自由記述には、「自分から積極的に話すことで児童達も楽しく接してくれたため」、「回数を重ねていくうちに児童とどのように接すればいいかわかるようになってきたため」、「1年生で実際に児童と関わることができ、残り3年で自分のなりたい教員像に近づけると感じたから」との回答が多く見受けられ、子どもと直接関わることを

通して自信につながったことが推察される。また、保護者との関わりについては、「何度も保護者と会話をしたから」、「目を見て話せるようになり、言葉に詰まらず自信を持って言えるようになった」、「実際に話すことで少しではあるがコミュニケーションを取る事ができた」という自由記述からも自信につながっている様子がうかがえる。

また、施設職員との関わりに対する自信に関する理由としては、「職員の方々が優しくなったということもあるが、かなり気さくに話すことができ、相談もできた」、「最後の感想を言う時に具体的な会話を何度もした」、「帰りの会について相談をしたり、子どもとの関わり方についてアドバイスをもらったり、お話をする機会が多かったから」という記述が多くみられた。

以上から、実習の回数を重ねるごとに子どもや保護者と積極的なコミュニケーションを図り、信

頼関係を築く機会が生まれていることがわかる。また、その一助として施設職員の存在が大きく、施設職員の学生への適切かつタイミングのよい関わりにより、学生が安心して活動することができ、子どもや保護者との関わりに対する自信につながっていると思われる。

その一方で、実習に対する期待に実習の課題が見受けられた。その理由に多かったのは、「コロナウイルスの影響により人数が少なかった」、「想像していたより児童の人数が少なかったから」というものである。これは新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、本来予定していた実習期間や内容の変更など、大きな制約を受けたことが影響したと考えられる。

2. 保育者養成コースの早期体験実習と意識調査

2-1. 結果

保育者養成コースと教員養成コースともに、ほぼ類似した結果となっている。

具体的には、2020、2021の両年度とも、実習後に子どもや保護者、施設職員との関わりに対する自信がついたと回答する割合が高かった。子どもとの関わりに対する自信は、2020年度は実習前「43.4 (%)」、実習後「60.0 (%)」と16.6ポイント向上し、2021年度は実習前「9.1 (%)」、実習後「14.5 (%)」と5.4ポイント高かった^{注3)}。また、子どもの保護者との関わりに対する自信は、2020年

度は実習前「9.4 (%)」、実習後「33.4 (%)」と24ポイント向上し、2021年度は実習前「16.4 (%)」、実習後「32.8 (%)」と16.4ポイント高かった。加えて、施設職員との関わりに対する自信は、2020年度は実習前「18.3 (%)」、実習後「43.3 (%)」と25ポイント向上し、2021年度は実習前「27.3 (%)」、実習後「65.5 (%)」と38.2ポイント高かった。

ただし、実習に対する期待や不安と将来の職業意識に関する事項で、保育者養成コースでもネガティブな回答が多かった。具体的には、実習に対する期待は、2020年度は実習前「71.7 (%)」、実習後「60.0 (%)」と11.7ポイント低下し、2021年度は実習前「92.7 (%)」、実習後「65.4 (%)」と27.3ポイント低かった。また、実習に対する不安は、2020年度は実習前「50.0 (%)」、実習後「58.4 (%)」と8.4ポイント高く、2021年度は実習前「5.5 (%)」、実習後「10.9 (%)」と5.4ポイント高かった^{注3)}。加えて、将来の職業意識に関する事項（保育者、教育者を希望職とする）は、2020年度は実習前「90.0 (%)」、実習後「80.0 (%)」と10ポイント低下し、2021年度は実習前「100 (%)」、実習後「94.5 (%)」と5.5ポイント低かった。

項目別にまとめると以下の通りである。

1) 実習に対する不安

2020年度は実習前「50.0 (%)」、実習後「58.4

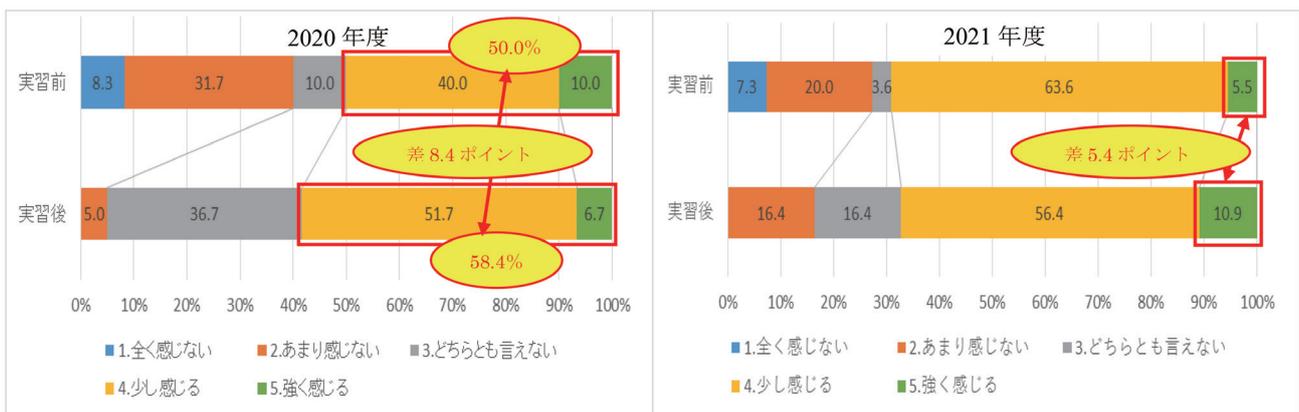


図7 「実習に対する不安」の年度比較

(%)」と8.4ポイント高く、2021年度は「強く感じる」の項目のみで比較したところ、実習前「5.5 (%)」、実習後「10.9 (%)」と5.4ポイント高かった。(図7)

2) 実習に対する期待

2020年度は実習前「71.7 (%)」、実習後「60.0 (%)」と11.7ポイント低下し、2021年度は実習前「92.7 (%)」、実習後「65.4 (%)」と27.3ポイント高かった。(図8)

3) 子どもとの関わりに対する自信

2020年度は実習前「43.4 (%)」、実習後「60.0 (%)」と16.6ポイント向上し、2021年度は「強く感じる」の項目のみで比較したところ、実習前「9.1 (%)」、実習後「14.5 (%)」と5.4ポイント高かった。(図9)

4) 子どもの保護者(親)との関わりに対する自信

2020年度は実習前「9.4 (%)」、実習後「33.4 (%)」と24ポイント向上し、2021年度は実習前「16.4 (%)」、実習後「32.8 (%)」と16.4ポイント高かった。(図10)

5) 施設の職員との関わりに対する自信

2020年度は実習前「18.3 (%)」、実習後「43.3 (%)」と25ポイント向上し、2021年度は実習前「27.3 (%)」、実習後「65.5 (%)」と38.2ポイント高かった。(図11)

6) 保育職、教育職を希望する

2020年度は実習前「90.0 (%)」、実習後「80.0 (%)」と10ポイント低下し、2021年度は実習前「100 (%)」、実習後「94.5 (%)」と5.5ポイント低かった。(図12)

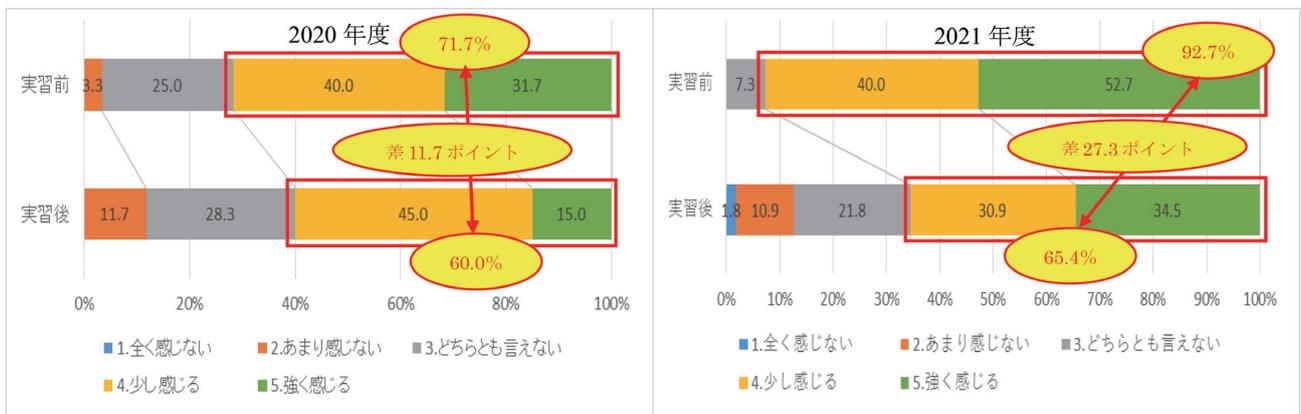


図8 「実習に対する期待」の年度比較

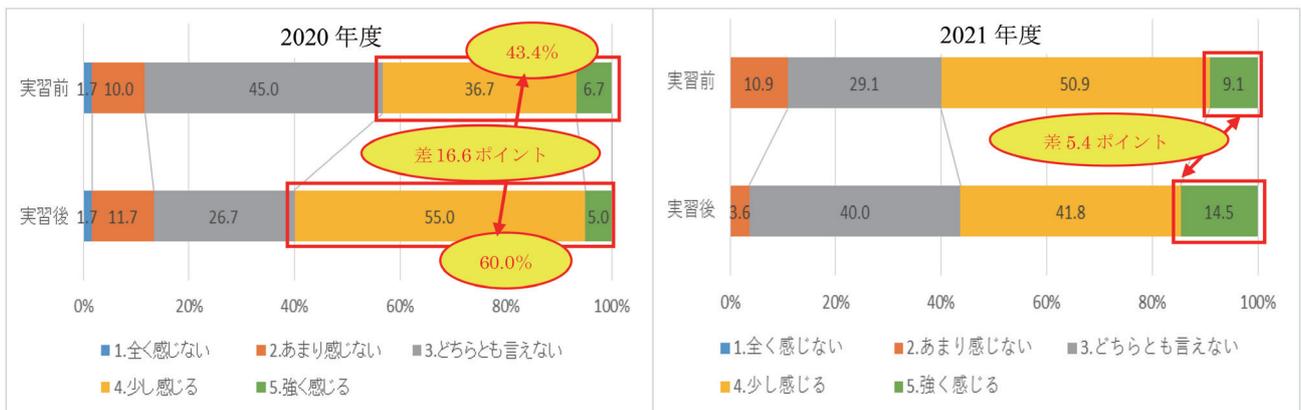


図9 「子どもとの関わりに対する自信」の年度比較

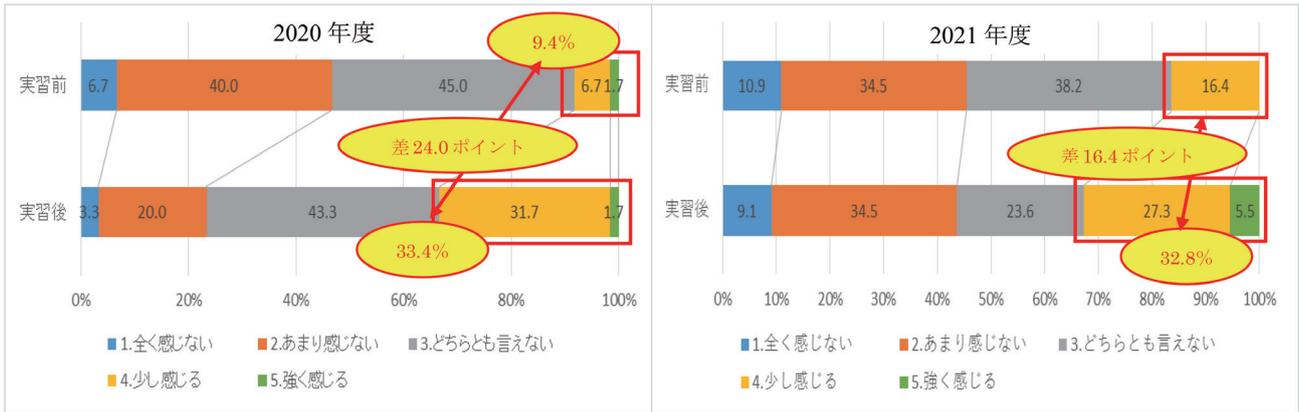


図 10 「子どもとの保護者（親）との関わりに対する自信」の年度比較

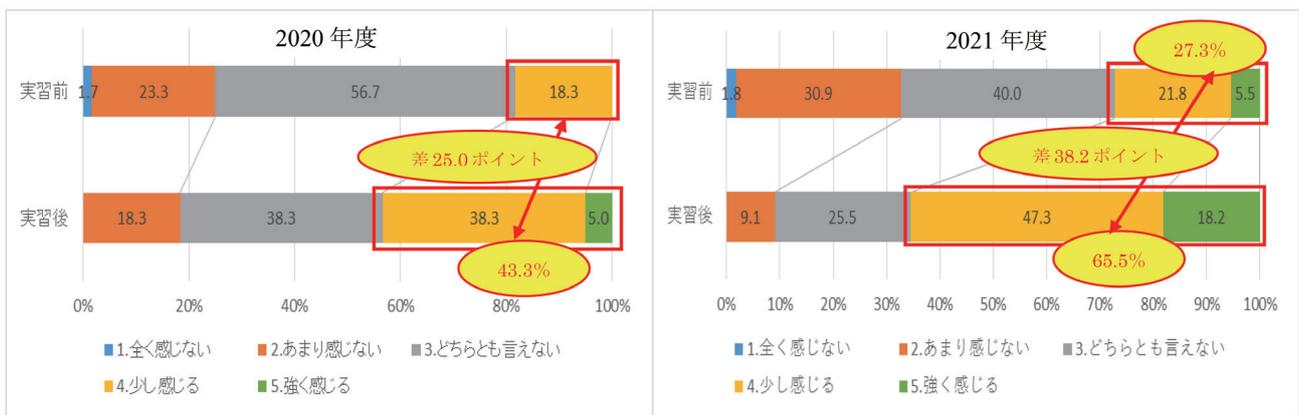


図 11 「施設の職員との関わりに対する自信」の年度比較

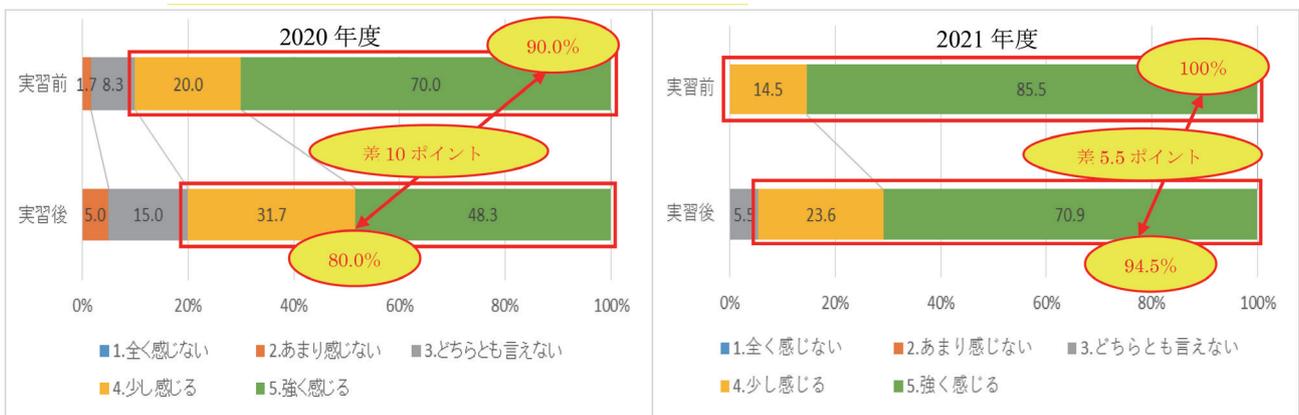


図 12 「保育者、教育者を希望職とする」の年度比較

2-2. 意識調査からみる実習の成果と課題

以上から、保育者養成コースは、実習後は子どもや保護者あるいは施設職員との関わりに自信をもつことができたという回答が多かった。特に、2021年度は施設職員との関わりに大きな効果が見られた。実習のふり返しレポートからも、「先生方も優しく接して下さったりアドバイスをしてく

ださった」「実習先の方が優しく丁寧に教えてくださったため」という感想が多くあり、施設職員の積極的かつ適切な指導が反映されていると推察できる。

ただし、実習に対する期待や不安、将来の職業意識に関する事項に課題が残る結果となった。これは教員養成コースと同じくコロナ禍により本来

予定していた実習期間や内容に大幅な変更が生じ、大きな制約を受けたからであろう。実際に実習ふり返りレポートからは、実習への期待に対して「親子の人数が少なかった」、「行った日は子どもが1人しかいなかった」「コロナもあり短時間の中で子どもも数少ない中での関わりだった」「1回だけでは確信はない」などの感想が見受けられた。

また、不安に対しては「半日見学に行かせていただいただけなので、まだ少し不安を感じる」「短い時間だった」「まだ、不安が十分に解消されたとと言えるほど経験を積んでいない」などの意見が多かった。そのため、実習に対する期待や不安は、実習回数や実習時間を増やすことで改善される可能性がある。

今後の展望

ここで改めて早期体験実習の教育的効果を整理する。KITの早期体験実習プログラムは、子ども、保護者（親）、施設職員との関わりに自信を持つことができるということに教育的効果がみられた。それは、まさに実習生がフィードバックを受けやすい環境にあるKITという本学独自の施設ならではの効果であり、大学の正課内の授業科目と、大学が運営する社会貢献事業の連携がうまく機能した取り組みだと言っても過言ではないだろう。

そして、従来実施されている各関連施設の観察実習を通して、現場で働くイメージを具体化させ、KITで教育力や保育力の基礎・基本を習得していく。このような早期体験実習のあり方こそが、前述したように養成段階の早期から職業意識の定着と動機づけに結びつくと考える。

最後に今後の展望について触れておく。本稿では早期体験実習に関する意識調査から、実習に対する期待や不安に課題があることが明らかになったが、それらの内容の検証にまで掘り下げられていない。つまり、本稿の検証では、実習に対する不安や期待が何を指しているのかまで踏み込めて

いない。そのため、テキストマイニング分析を実施することで実習に対する不安や期待の内実に迫りたい。また、2022年度は、2020年入学の学生が3年生になり、本実習を迎える年である。そこで、教育実習や保育実習Ⅰ後に意識調査を行い、1年生の早期体験実習がどのように影響を及ぼしているか、その連続性を明らかにしたい。

謝辞

本研究に協力していただいたすべての学生たちに深謝致します。

本稿は、日本保育学会第74回大会²⁾および第75回大会³⁾の発表内容と、JSPS科研費17K18015の成果の一部を加筆修正したものである。

本研究は、2020年度および2021年度の本学テーマ別研究の助成を受けたものです。

注

注1) 「KIT」は、地域子育て支援事業の一環で2018年に組織された子育て総合支援施設である。「子育て支援」について、神戸市長田区を対象に本学の専門性（教育・保健医療）を駆使してその解決策を講じ、地域のソーシャルキャピタルを発掘、強化するために、本学と地域が一体となって取り組む「地域子育てプラットフォーム」である。同施設は小学児童を対象に学習支援を行う「てらこや」、未就学児を対象に子育てひろばの機能をもつ「ときわんクニヅカ」、地域住民を対象にサテライトセンターの機能をもつ「コティエ」の3つのゾーンが一緒になって、アスタくにづかに位置する。また、元町商店街6丁目にも「ときわんクニヅカ」と同じ子育てひろばの機能をもつ関連施設「ときわんモトロク」が

ある。さらに、2021年には神戸市御崎公園球技場のなかに小中学生を対象に学習支援を行う「てらこやノエスタ」、子育てひろばの「ときわんノエスタ」が開室された。

- 注2) 教員養成コースは主に小学校教員の養成として、「小学校教諭一種免許状」や「幼稚園教諭一種免許状」、「社会福祉主事任用資格」を取得するコースである。保育者養成コースは主に保育士、幼稚園教諭の養成として、「保育士資格」や「幼稚園教諭一種免許状」、「社会福祉主事任用資格」を取得するコースである。
- 注3) 2021年度は「強く感じる」と回答した割合のみを比較している。
- 注4) 2021年度では実習前後の変化はみられなかった。

文献

- 1) 大城亜水, 山下敦子, 高松邦彦, 中田康夫. 教員・保育者養成課程における職業意識定着と動機づけのための教育方法の開発Ⅰー保健医療専門職教育における早期体験実習をもとにしてー. 神戸常盤大学紀要. 2023, vol. 16, p.20-30.
- 2) 大城亜水, 川島直子. “保育者を目指す学生の職業意識および動機づけの早期定着支援ー神戸常盤大学とKITの取り組みー”. 日本保育学会第74回大会発表要旨集. 2021, 112p.
- 3) 大城亜水, 川島直子, 渡邊恵梨佳. “保育者養成学生の職業意識と動機づけに関する意識調査ーKITの取り組みから見えてくるものー”. 日本保育学会第75回大会発表要旨集. 2022, 107p.